

令和4(2022)年度

第3回 栃木県地域公共交通活性化協議会

前回協議会について

# 1. 第2回栃木県地域公共交通活性化協議会の概要

開催日時	令和4年7月27日(火) 10:00~12:00
開催場所	栃木県庁 昭和館4階多目的室
会議形式	ハイブリッド(対面とWEB)会議
出席者	委員18人、アドバイザー1人(うち代理2人)
議題	(1)報告事項 ・栃木県の公共交通について (2)協議事項 ・令和4(2022)年度収支予算の補正について ・基礎調査の実施内容について ・地域部会の設置について



## 2. 第2回栃木県地域公共交通活性化協議会の議題

### 1 栃木県の公共交通について

- 栃木県の人口等の現状(人口推移、高齢化率の推移、交通分担率、運転免許自主返納数の推移等)について説明
- 栃木県の公共交通の現状(鉄道・バスの運行状況、人口カバー状況、輸送人員の推移、バスの収支率、公費負担額の推移等)について説明

### 2 基礎調査の実施内容について

- 地域公共交通計画策定の背景、策定スケジュール(R4:基礎調査、R5計画策定)について説明
- 基礎調査で実施する調査の実施内容(地域の現状分析、データ等による検証分析、上位計画・関連計画との連携整理)について説明

### 3 地域部会の設置について

- 路線バス(地域間幹線系統)の運行エリアを考慮し県内を県北・県央・県南の3つに区分し、市町や交通事業者が参画する地域部会を設置することについて説明

### 3. 前回協議会の主な意見①

主な意見等	検討状況
<p>①輸送手段という観点から、<u>シェアサイクルや福祉・教育分野の送迎バス</u>なども整理してもらいたい。</p>	<p>県内の<u>レンタサイクル・シェアサイクル</u>の提供状況を市町別に整理したほか、<u>高校のスクールバス</u>の実態を把握したところである。今後、<u>大学が運行するスクールバス</u>についても調査を行うなど、引き続き輸送資源の調査を行っていく。</p> <p style="text-align: right;">【今回提示】</p>
<p>②-1 <u>鉄道とバスの乗り継ぎで困っていることがないか</u>どうか、アンケート調査で実態を把握できるとよい。</p>	<p>高校生アンケート調査の設問において、「<u>公共交通の満足度</u>」、「<u>公共交通で不便に思うこと</u>」、「<u>公共交通が便利になった場合の学校生活の充実度の変化</u>」について調査を行った。</p> <p style="text-align: right;">【今回提示】</p>
<p>②-2 鉄道を使用する学生の意見として、<u>鉄道とバスの乗り継ぎに時間がかかる</u>ことが挙げられる。</p>	
<p>②-3 鉄道のダイヤ改正等はやむを得ない事情がある一方、その影響を受ける「<u>高校生の通学の品質</u>」をどのように確保していくのか。</p>	
<p>③ <u>都市計画と公共交通計画との連携</u>は重要。公共交通計画と都市計画との整合を図るというよりも、公共交通において何が大事なのかを先に考えた上で、都市計画を必要に応じて見直していくという考え方も大事。</p>	<p>計画策定に当たり、上位計画・関連計画の整理を実施し、整合性を確認している。</p> <p style="text-align: right;">【継続検討】</p>
<p>④ 栃木県は、<u>地域毎にバスの乗り方・時刻表の表示などが異なる</u>。公共交通に乗り慣れていない人には乗り方が難しい。<u>県統一のクオリティがあってもいい</u>ではないか。</p>	<p>県内主要駅の案内表示、時刻表の場所等の実態を調査した。今後、利用者にとってわかりやすく、利用しやすい案内表示について検討していく。</p> <p style="text-align: right;">【今回提示】</p>

今回提示: 今回の協議会(第3回)において検討結果等をお示しするもの

継続検討: 検討途中であることから、今回の協議会(第3回)においては結果等をお示ししないものの、今後においても引き続き検討を行っていくもの

### 3. 前回協議会の主な意見②

主な意見等	検討状況
<p>⑤市町には鉄道やバスの幹線に対する考えがあると思う。<u>市町単独では検討が難しい幹線に関する意見</u>などを地域部会の場で意見を聞けるといい。</p>	<p>市町アンケート調査の設問において、「<u>市町をまたぐ広域路線の運行について県に求めること</u>」を調査し、地域部会においても市町の意見を聴取した。 【今回提示】</p>
<p>⑥-1地域の人口が減少している中、これからは収益源としての<u>県外からの来訪客</u>(観光、出張者、移住検討者など)についても考える必要があり、移動実態を把握できるとよい。</p>	<p>通勤・通学以外の流動を把握するため、<u>休日の人口流動及び市町ごとの県外からの流入人口や全流入人口に占める県外からの割合</u>を調査した。 <u>出張者(ビジネス目的の来訪者)</u>については、<u>WEBアンケート</u>を実施し、主要駅から最終目的地までの2次交通に選択されている交通モードを分析していく。 【今回提示】</p>
<p>⑥-2県外からの移動実態については、<u>県内の公共交通を使ったアクセスについてどのような課題を感じているかなどアンケート等による定性的な把握の手法</u>もある。</p>	
<p>⑦各自治体では、<u>公共交通を住民に周知できていない</u>との問題意識を持っている。県計画の中に<u>県民へのアピールについて盛り込む</u>ことを検討してもいいのではないか。</p>	<p>県民への効果的な周知(アピール)について検討していく。 【継続検討】</p>
<p>⑧地域部会において、<u>複数の地域とつながりのある市町</u>の対応をどうするか。</p>	<p>県北・県央地域とつながりのある<u>塩谷町は両方の部会に所属</u>してもらうこととした。地域事情に応じて、構成員は適宜柔軟に対応していく。 【今回提示】</p>
<p>⑨地域公共交通計画は、タクシーや鉄道も含めた<u>様々なモードを含めて公共交通を確保していく計画</u>であるため、バスに限らず人の移動を考えるべき。</p>	<p>地域部会の構成員を、各地域で運行を行う<u>全ての鉄道事業者、バス事業者</u>に加え、<u>タクシー協会</u>とした。 【今回提示】</p>

今回提示: 今回の協議会(第3回)において検討結果等をお示しするもの

継続検討: 検討途中であることから、今回の協議会(第3回)においては結果等をお示ししないものの、今後においても引き続き検討を行っていくもの